

## 設定温度の見直し

- 管理温度と実温度に乖離(実温度が下がり過ぎ)がある場合、設定温度を適正にすることで節電になります。  
(商品の過冷状態が緩和されて冷凍機の消費電力(kW)が下がります)

### 試算例

設定温度の見直しをすると...  
(売場面積2,000m<sup>2</sup>相当のスーパーの事例)

■ 節電効果 : **節電効果 2万円/年** 【業務用電力単価を適用】  
**節電電力 約 0.4kW**  
**節電電力量 約 1,500kWh**

■ 対策内容 : 設定温度の適正化(アイスクリーム用5台分)

■ 計算式 : 節電電力(kW) = 消費電力(対象設備分) × 負荷率 × 削減効果  
節電電力量(kWh) = 節電電力 × 対象時間 × 対象日数

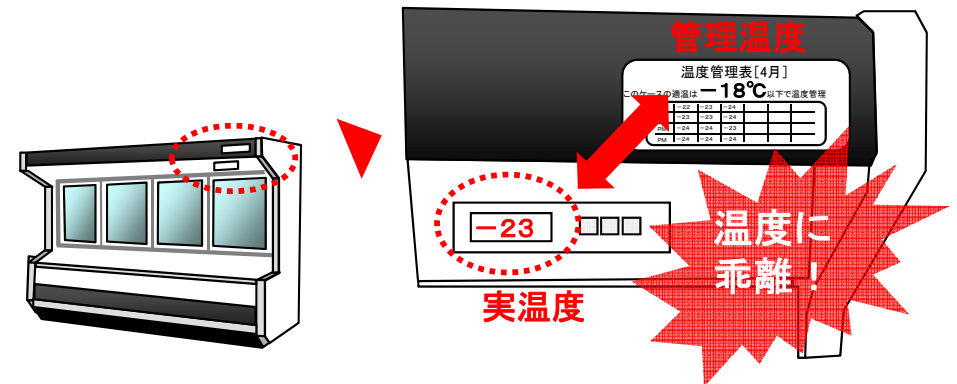
(試算条件)

消費電力(対象設備分): 15kW [ショーケース用冷凍機]  
負荷率: 40%(仮定)  
削減効果: 7%(設定温度1°C上げた場合)  
対象時間: 10時間/日(10:00~20:00)  
対象日数: 365日/年

### ポイント

- 設定温度見直し時は、商品の品質管理に十分注意をして下さい。
- 調理機器、冷蔵庫の場合も、設定温度を見直すことで節電になります。
- デマンド抑制の観点から、監視装置の警報が発生した場合はショーケースの設定温度を更に上げることは一つの手法です。

### 参考



ショーケースの管理温度と実温度